教育事業

# 令和５年度「第４４期はなやまボランティアスクール」兼「自然体験活動指導者（ＮＥＡＬ）リーダー研修会」

１．趣旨

全国２８施設の国立青少年教育施設でボランティア活動が行える「法人ボランティア養成カリキュラム」において、ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高めます。また、希望者はさらにスキルアップの機会を持ち、楽しく安全に活動を指導するために自然体験活動指導者（ＮＥＡＬ）リーダーの資格を取得できます。

２．事業の概要

（１）期日　令和５年６月１７日（土）～６月１８日（日）【１泊２日】

（２）参加者

①参加対象 自然体験活動指導者（NEAL）に興味のある１６歳以上の方（高校生・大学生等・一般）

②参加人数　３０名（男８名　女２２名）

③ＮＥＡＬ登録数　３１名（男８名　女２３名）職員２名含む

【参加者の所属先】

岩ヶ崎高等学校・古川高等学校・古川黎明高等学校・宮城学院女子大学・尚絅学院大学・東北福祉大学
宮城教育大学・岩沼市教育委員会・専業主婦

３．企画運営のポイント

①より実践的な実技と講義内容にすることで、自然体験活動の指導者の育成を図るとともに、今後のボランティア活動に活かせるようなプログラムを意識した。

②テント泊の経験のあるボランティアが少なかったため、キャンプ場で実施した。

③野外炊事を２回実施し、炊事のスキル向上を目指した。

④株式会社大塚製薬による熱中症対策講義を取り入れ、安全管理に関する知識の習得を目指した。

４．日程

| 時間 | ６月１７日（土） | ６月１８日（日） |
|---|---|---|
| | | 起床：6:00 |
| 6 | | 健康観察 |
| 7 | | 朝食（野外炊事）6:30～ |
| 8 | 開講式（オリ室）9:50～ | テント撤収 8:15～ |
| 9 | **ガイダンスⅠ**（ＰＨ）10:00～ | **対象者理解**（ＰＨ）9:00～ |
| 10 | **自然体験活動の技術**（砥沢）10：30～ | |
| 11 | | **自然体験活動の指導**（リックの森）10:30～ |
| 12 | | 昼食 |
| 13 | | 熱中症に関する講義（中研修室）13：00 |
| 14 | | **ガイダンスⅡ**（中研修室）13:30～ |
| | 着替・休憩 | **認定試験**（中研修室）14:00～ |
| 15 | **自然体験活動の技術**（キャンプ場）15：00～ | 閉講式（中研修室）14:30～ |
| 16 | テント設営 | |
| 17 | 野外炊事 | |
| 18 | | |
| 19 | 入浴（19：00～） | |
| 20 | 情報交換会　20:00～ | |
| 21 | キャンプファイヤー | |
| 22 | 就寝準備 | |
| | 消灯・就寝 | |

## ５．主な活動内容

①　「自然体験活動の特質」

②　「自然体験活動の技術」

③　「対象者理解」

④　「自然体験活動の指導」

## ６．成果と課題

### （１）参加者アンケート結果

満足：９３．５％　やや満足：６．５％　やや不満：０％　不満：０％

### （２）参加者の声

・ただ教わるのではなく、自分で考えて作業するというところがとても良いなと思いました。
・ドキドキしたけれどこのような機会を使って自分を成長させたい。
・対象者理解やアイスブレイクについて学ぶことができ、自分が指導者側に立った時、何に注意すべきか考えられるようになりました。
・次はボランティアとして参加したいです。
・充実した内容でたくさんの経験をすることができました。

### （３）成果

・ＳＰＥＣモデルを意識したプログラムを多く取り入れ、参加者同士がお互いに話し合いながら、学ぶことができた。それによって理論と実践の学びが深まり、参加者の満足度が高まった。
・多くの参加者を得ることができ、自然体験活動指導者のすそ野を広げることができた。

### （４）課題

・プログラムがタイトになり、参加者に負担をかけた場面があったので、次年度は移動時間などもう少し考慮に入れてプログラムを組む必要がある。
・女性の参加者が多かったため、スタッフに女性がいると沢活動など安心感が生まれると感じた。ボランティアを募集していない事業であるが、ボランティアがいるともう少し運営がスムーズになると感じた。

担当：事業推進係長　田口　康宏